

# 令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立仲六郷小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・クレヨンなどの具体物や表を使う活動を取り入れることで、ものの長さを比べたり、ものの個数を種類ごとに分類整理したりすることができるようになった。(1年)
- ・図や式、言葉を使って考えを説明する活動を取り入れたことで、自分の考えを算数的に説明する力が身に付いた。(2年)
- ・基礎的な四則計算の仕方が定着している。(3年)
- ・ペアで説明し合う活動を取り入れたことで、自分の考えを伝える活動に自信をもてるようになった児童が増えた。(3年)
- ・場面に応じて図や数直線に表すことで、問題文で何が述べられているか、何を求めるのかを整理し理解できるようになってきた。(4年)
- ・既習の学習と関連付けて問題を図や式に表し、見通しをもって解決していくようにしたこと、自分の考えをもち、すすんで伝える児童の姿が見られた。(4年)
- ・作図に取り組む時間を十分に確保したり、身の回りの具体的な形を対象としたりしたこと、図形に対する理解が深まった。(5年)
- ・単位量当たりの領域では、もとにする数の1をとらえる発問をしてきたことで、もとにする量と比べられる量を理解して、立式をしたり答えを出したりすることができた。(6年)
- ・数直線での立式を定着させたことで、根拠をもって立式することができるようになった。(6年)

### (2) 課題

- ・繰り返し下がりのある引き算に抵抗を感じ、解き方が定着していない児童が数名いる。(1年)
- ・かけ算九九が定着していない児童がいる。一定数いる。(2年)
- ・「時刻と時間」について、時間の計算の仕方を理解できていない児童が数名いる。(3年)
- ・「数と計算」において、計算技能の習得で確実な定着がされていない。(4年)
- ・「図形」において、図形のもつ性質についてはおおむね理解できてはいるが、それらを図形から読み取ることや活用して課題解決することを苦手としている児童が多い。(5年)
- ・中学年までの既習内容(かけ算九九やいくつといくつ)の未定着な児童が多く、既習事項を活用した問題解決が課題である。(6年)
- ・家庭で学習する習慣の乏しい児童が多く、学習の定着が困難である。(全学年)

## 2 大田区学習効果測定の結果について

### (1) 達成率(同一集団の経年変化)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度
第4学年	・校内の正答率の平均が、目標値をやや下回っている。 ・目標値を大きく下回る「わり算」に課題がある。	・校内の正答率の平均が、目標値をやや下回っている。 ・目標値を大きく下回る「時刻と時間」に課題がある。	・校内の正答率の平均が、区内の平均正答率とおおむね同程度となっている。
第5学年	・校内の正答率の平均が、やや下回っている。 ・目標値を大きく下回る「分数」「変わり方調べ」に課題がある。	・校内の正答率の平均が、目標値をやや上回っている。 ・目標値を大きく下回る「小数の計算」「割合」に課題がある。	・校内の正答率の平均が、区内の平均率より全ての項目で下回る結果となっている。
第6学年	・校内の正答率の平均が、区内の平均率よりほとんどの項目で下回る結果となっている。特に「分数と小数」や「円グラフや帯グラフ・平均」に課題がある。	・校内の正答率の平均が、目標値を大きく下回る結果となっている。特に「小数の計算」に課題がある。	・校内の正答率の平均が、区内の平均率より全ての項目で下回る結果となっている。

(2) 令和7年度の結果分析（観点別）

・4学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数を数直線上で表すことができない児童が多い。</li> <li>・かけ算とわり算の仕組みをあまり理解していない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定の数を超えないように数量を選択する問題において、選んだ理由を説明できない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わり算に関する問題が、目標値から大きく下回り、苦手な児童が多い。</li> <li>・文章題を正しく理解し、求める力が弱い。</li> </ul>

・5学年

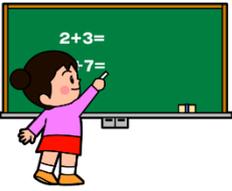
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数やわり算についての理解が十分でない児童が多い。</li> <li>・変わり方調べについて苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「角の大きさ」について、三角定規の角の大きさを合わせる問題において、正答率が低くなっている。</li> <li>・仮分数や帯分数の大小比較に苦手さが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「角の大きさ」についての無回答が多かった。</li> </ul>

・6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの学習が下回る結果から、学習の定着をどのように行うかが課題。</li> <li>・小数の計算を正しく計算する力が弱い。</li> <li>・グラフや平均を求める力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題を理解し、立式をたてることを苦手としている。問題を正しく読み取れていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解できない問題に粘り強く取り組む力が課題。また、間違えてしまった際に、解き直したり理解を確実なものにしようとしたり、繰り返し練習することにながっていない。</li> </ul>

3 授業改善のポイント

・低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算やひき算の計算について、カードやスキル、宿題プリントなどを使って繰り返し練習に取り組む時間を確保する。</li> <li>・キーワードと立式に必要な数値を問題文から読み取らせたり問題場面をブロックで表したりする活動を通して、問題の意図を正しく理解できるようにする。</li> <li>・まなびポケットの「ドリルパーク」等のICT教材を活用し、個に応じた学習の場面をつくることで、技能の定着を図る。</li> </ul> <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数タイムを活用し、筆算や作図等の学習活動を反復して行うことで、技能の定着を図る。</li> <li>・まなびポケットのドリルパーク、タブレットドリル等のICT教材を活用し、個に応じた学習の場面をつくることで、技能の定着を図る。</li> </ul>	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中のキーワード（「あわせて」「のこり」など）に線を引かせて問題の意図を読み取らせる。</li> <li>・考えた過程をペアで説明する場を設けたり、友達の考えを聴くときに、自分の考えと同じ点、違う点はどこかを意識させたりするなど、考えを伝え合い、表現する活動を増やしていく。</li> </ul>  <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解法の説明をする際に、言葉だけでなく絵や図、式等を用いて説明させる機会を設けることで、問題の意味理解を図れるような指導をしていく。</li> <li>・少人数で考え方を伝え合い、表現する活動を増やしていくことで表現</li> </ul>	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組めるように、具体物や半具体物など、視覚的に分かりやすい教材を用意する。また、操作する時間を十分に確保する。</li> <li>・まなびポケットの「ドリルパーク」や「学習探検ナビ」などのICT教材を活用し、楽しみながら反復練習に取り組めるようにする。</li> </ul>  <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な児童も意欲的に取り組めるように、習熟度別プリントを利用し、スモールステップで学習を進める。</li> <li>・確かめや振り返りを充実させ、定着の時間を確保する。</li> <li>・ドリルパークやタブレットドリ</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を用意し、視覚的に理解できるように教具の工夫をしたり、具体物を操作する活動場面を多く設定したりして、数量や図形の理解を深めるようにする。</li> </ul>	<p>する力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で身に付けさせたい数学的な見方・考え方を提示し、児童が活用させたい考え方を意識できるようにさせる。</li> <li>・文章題では、分かりやすい図式に表現させ意識化を図る。</li> </ul>	<p>ル等の ICT 教材の活用により、知識・技能の習得、反復練習に意欲をもって取り組めるようにする。</p>
--	--	---

・ 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算力を高め、文章題の立式や筆算の仕方ができるように、ドリル学習やタブレットドリル等を活用し、繰り返し学習に取り組ませる。</li> <li>・長さや重さなどの学習で、身近なものを計測する活動を取り入れ、児童が量感を養うことができるようにする。また、単位換算を繰り返し復習し、確実に定着させる</li> </ul>	<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題については、具体物や図、式を用いて考えさせる。ミニホワイトボード、ICT 機器等を活用し、立式の理由を共有し互いに学び合う活動を多く取り入れるようにする。</li> <li>・問題文の大切な箇所に線を引き、問題の意味を正確に把握できるようにする。</li> </ul>	<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを、生活場面や親しみをもちやすい場面で活用させ、学習したことの意義を実感させる。</li> <li>・毎時間毎の終末では、適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。</li> </ul> 
<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習でドリルやタブレットドリルを活用し、学習内容の定着を図っていく。既習内容についても、宿題などで繰り返し問題に取り組ませるようにする。</li> </ul> 	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題では、正しく問題文を読むために、分かっていることや聞かれていることに線を引かせる。</li> <li>・立式して答えを求める際は、図や、数直線などを活用して、自分の考えを書くようにする。考えは、ペアで伝え合い、道筋立てて説明する力を伸ばす。</li> </ul>	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活と結び付けながら問題に取り組めるようにし、問題場面の理解を促す。</li> <li>・習熟に応じた問題に取り組ませ定着を図り、「できた」「分かった」という経験をたくさんさせる。</li> </ul>

・ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリルパークを活用し、繰り返し問題を解くことで基本的な計算の定着を図る。</li> <li>・変わり方調べについては、比例や割合などの学習の際に丁寧に振り返りながら定着させていく。</li> </ul>	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・角度の学習の際に三角定規に触れさせ、反復していくことに加え、多角形などの学習の際に、丁寧に角度の計算について学習させる。</li> <li>・分数の学習では、仮分数や帯分数について、具体物を用いて大きさを意識させる。</li> </ul>	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間がなくなったことも考えられる。わかる問題から解くなど見通しをもって問題に取り組めるような経験を積む。</li> </ul> 
<p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容を単元の学習に入る前や朝学習、宿題などで振り返りを行い、定着するよう、継続的に行っていく。</li> <li>・課題については、数直線を書くようにして、必ずもとにする1から考えてかけ算から数量の関係を捉</li> </ul>	<p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題では、基にする量と比べられる量や、もとにする1、単位に着目させ確実に読み取るようにする。</li> <li>・立式の根拠を上げさせ、式が成り立つ理由を図や数直線をすすんで活用できるようにしていく。</li> <li>・児童が考えを伝え合う活動を設け、</li> </ul>	<p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元や毎時間毎の終末では、習熟度にあった適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。</li> <li>・日常の生活や他教科、既習事項との関連を踏まえながら、見通しをもって、自分の考えを伝え、主体</li> </ul>

<p>えさせるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・問題場面と式を対応させるやり取り、タブレット端末を活用した計算技能の習熟が図れるようにしていく。</li></ul>	<p>自分の考えを広げ、深められるようにする。ITC 機器を活用し、考えを共有していく。解き方を説明したり伝え合ったりして、理解の定着を図る。</p>	<p>的に取り組めるようにする。</p>
---	---	----------------------